

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自らの生活の場であると実感できるように実践につなげている。	ホームの理念を職員は十分理解しており、入居者に関わる際には理念を意識しながら取り組んでいる。ケアプラン会議や毎日の申し送りなどで具体的な支援について確認したり話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩などで顔なじみになった人々に声をかけて頂いたり作物を頂いたりと楽しく交流できている。	ホームは地域行事への参加や近所づきあいに積極的に取り組んでいる。定期的に来訪し入居者と交流している各種ボランティアや福祉系学生の実習の受け入れをしている。また、朝夕敷地内の私道を行き交う住民が時折足を止め入居者・職員と言葉を交わすなど地域との交流は日常的で当たり前に行なわれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	法人では地域との交流施設建設を企画している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議が行われて活動報告をし意見などを聞きながら運営に反映している。	昨年度の課題であった同じ法人のグループホームとの合同運営推進会議に関しては参加メンバー等の理解や協力により別途実施しており改善されている。会議録は今後、地域や入居者家族らに公表する方向で考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回、安心相談員の派遣があり、入所者と話をされている。気になる方へは特にお願いで話を聞いて頂くようにしている。	市の担当部署には運営推進会議議事録やホーム便りを届けている。また分からないことや問題などがあれば、その都度、連絡や相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員理解できている。	職員は「身体的拘束その他入居者の行動を制限する行為」の具体的内容を理解しており、日々「拘束のない、しない」ケアを実践し入居者が自由に気持ちよく過ごせるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所内で徹底して防止に努めている。		

グループホームコスモス長野・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している入所者がいる。制度を利用できるよう協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い理解、納得を図っており変更などある場合はその都度説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	フロア事務所前に意見箱を用意し訪問の時も意見・要望等を聞いている。	毎月、生活の様子を個々の家族等に文書で報告し、またホーム便りに写真入りで伝えている。家族会は年4回あり、運営推進会議にも代表が参加し意見・要望を伝えている。意見箱は設置されているが活用されたことはなく、家族等は気軽に声を掛け話していくことが多い。勤務体制の見直しで職員の異動等もあり、職員の名前が家族等に分かり易くなるような方法を検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回に職員会議を開き意見や要望、提案事項を聞いている。	管理者は職員が何でも気軽に言える関係作りに努めている。毎月の会議や日々の話し合いで職員から意見や提案を聞く機会があり、そこでの声を運営に反映させている。職員体制が変わり毎月の会議の議題も多いことなどから会議内容を見直す方向である。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回ホーム長会議があり職員の不満や要望などその都度伝えて改善に至るように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	あらゆる研修に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	善光寺平グループホームネットワークに加入している。そこでの情報や勉強会にできるだけ多く参加できるように努めている。		

グループホームコスモス長野・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞き取り調査時によくお話を聞き、様子の観察を行いその人らしい生活ができるように話し合っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を蜜に行い要望、周辺状況など入念に聞き支援設計に役立てている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者が今一番にしてほしい事を見極め家族の理解を得ながら対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の暮らしの中で入所者から声を掛けて下さりお手伝いをしてくれたりしてます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事など参加を促し、交流を深めている。その都度家族に連絡を取り、入所者の支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望、本人の意向を踏まえて支援に努めている。	一人ひとりのかけがえのない馴染みの人たちや場所との関係が入居後も継続できるように積極的に取り組んでいる。家族と馴染みの場所に出かけたり、友人の訪問を受けるなど入居者は生き生きと生活できている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者が孤立しないようにさり気なく仲間作りができるように支援している。		

グループホームコスモス長野・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所され近くの施設に入所された利用者を訪問したり施設から相談にも答えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	できる限り、本人の意向に添うよう努めている。	本人らしく生活できるよう職員は声を掛けて思いを確認したり表情からも読み取っている。把握が困難な場合は家族等からの情報を参考にしながら皆で話し合いをもち、本人本位に検討するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期アセスメントで個々の生活歴や生活環境等をお聴きしスタッフと共に情報を共有したり、日々の会話の中から知り得ることを大切にしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出きる事はできる限り本人にして頂きADLの維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1度ケアプラ会議で話し合いその都度計画の見直しを行っている。状態の変化に伴う時はそれ以外にも見直しを行っている。	介護計画は本人や家族の意向を基に計画作成者が職員の意見や気づきを参考にしながら作成している。定期的に評価、見直しが行われている。状態や意向などが変わった場合には直ちに見直し、現状に即したものに作り変えている。入居者の情報はセンター方式を活用し詳細に把握されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日暮らしの記録をし、異常などある時は引継ぎ送りなどで情報の把握に努め介護に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問看護と契約し、状況変化に伴い支援をお願いしている。		

グループホームコスモス長野・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小さな畑に作物を作り手入れ収穫の喜びを味わっている。皆と一緒に楽しみを共有している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回医師が訪問し体調管理に努めている。介護について職員も心配事など相談している。	定期的に医師の往診や看護師の訪問があり入居者の健康や体調管理が行なわれている。入居者が服用している薬に関しては効能や注意事項などを把握し注意を払っている。入居者の心身に異常や変化があれば医師や看護師に連絡・相談している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約し24時間対応して頂いている。医師の来ない時など訪問して頂き状況を報告している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを	地域連携の医師を持ち異常のある時など速やかに受診できるように関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時にどのようにするかを契約時に話し合い同意書を用意し説明方向性などを検討している。	契約時にホームの方針を説明し、本人や家族の意向を確認している。状態に応じ医師から家族に説明が行われ、状況が変わるたびに話し合いが行われている。「重度化に関する指針」、「看取りに関する指針」があり職員教育も行なわれている。入居者自ら自身の迎える最期について職員に話しかけ語り合うこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員が把握できるように研修を行い話し合い実践が身につくよう努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間対応の避難訓練を随時行っている。地域の消防の方とも推進会議に出て頂き施設の状況など理解して頂いている。	消防署の指導の下、ホーム独自の避難誘導や通報訓練、消火器の取り扱い方など防災訓練を年2回実施している。今年度スプリンクラーが設置され、また長年の要望であった2階からの避難階段も取り付けられた。トラッキング現象防止策の検討を定期的に行なったり、夜勤者が火元点検を毎日行うなど火災予防に日々取り組み安全確保を図っている。	夜勤帯は職員数が日中と違い少ないので避難誘導や救出方法を更に具体的に話し合い、入居者に対しての万全の策を講じられることを望みます。

グループホームコスモス長野・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人のプライドを傷つけないような声かけや対応をしている。	サービス提供時には一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーに配慮しながら支援している。馴れ合いから相応しくない対応があれば個人的に注意を促したり会議で話し合い徹底に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分の意思を表現できる人にはできる限り意向に添えるように協力している。意見を表に出せない人にも事前に声かけしできる限り自己決定して頂いている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れが決まっているのでできるだけ流れに従って行動して頂いているが希望のある人には意思決定に添えるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じた服装や好みの服など意見を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理の手伝い準備、片付けなどできる範囲で協力して頂いている。	食事の準備は入居者の力量に応じながら一緒に作っている。旬の食材を使った季節料理や入居者の好物なども取り入れながら食事への関心や楽しみな時間が持てるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量を把握し管理に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人でできる人には声かけ、チェックを行い出来ない人には職員がケアしている。		

グループホームコスモス長野・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的な声かけ、トイレ誘導などその人にあつた支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンやサインを全職員が把握しており、排泄の失敗防止に取り組んでいる。夜間はリハビリパンツやパットを使用しているが、多くの入居者は日中布パンツで過ごしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バイタルチェック時は排便の把握をし水分補給、時には薬の管理も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	運営上、入浴日は決まっているがゆっくりと入浴して頂ける様、又希望の入浴方法に合うよう努めている。	ゆっくりとくつろいだ気分で入浴出来るように一人ひとりの意向に沿いながら支援している。入浴を嫌がる入居者にはタイミングをみながら声がけするなど工夫している。入浴日は各階で決まってはいるが、二つの階が協力し合うことでいつでも入浴が可能となっている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内温度の調節、定期的な寝具の洗濯を行い清潔に保てるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理と服薬はスタッフが支援している。症状の変化には特に心配している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーション、天気の良い日は散歩など季節を味わいながら気分転換できるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ゆるす限り外へとドライブに出かけたり季節を味わいながら気分転換できるように支援している。	入居者一人ひとりの意向に沿つた個別支援や日々の屋外散歩で気分転換をしている。また、四季折々、ドライブがてら出かけては自然を満喫する機会を設けている。「今日は天気だから出かけたたい」、「今日はどこかに行きたい」等、急な意向であっても各階で協力し合い出かけている。	

グループホームコスモス長野・2階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人のおこづかいを預かり必要な物品希望の物など買っている。買物も同行して行っている。お小遣い帳を持ち定期的に家族にチェックして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の取次ぎを行い本人とお話して頂いている。必要な時はスタッフの判断で電話でお話して頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の清掃、生花、鉢植えなど季節感を味わえるように努めている。水くれなど協力していただいている。	入居者等が一日の多くを過ごす共有空間には季節の花を配置したり、馴染みのある年間行事の飾り物を飾ったり作ったりしながら居心地良く過している。壁には入居者と職員が協力し合って作った大作のお月見の貼り絵が飾られていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話を楽しめるようにソファ、椅子などを配置し利用者同士で楽しめるように工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具なども取り入れ家具の配置など本人が居心地よく過ごせるよう工夫している。	自宅から持ってきた家族写真、家具、元気な頃に手掛けた作品などに囲まれ、入居前からの生活習慣が継続されその人らしく安心して暮せるような環境づくりに配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食事の時の座席の工夫やトイレ使用時の安全確保など一人ひとりが自立して生活できるように配慮している。		